



フードバンク関西ニュー

2008年4月12日 第13号

2008年4月12日発行
NPO法人フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
Tel/Fax 0797-34-8330
E-mail foodbank05@yahoo.co.jp

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を

受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

2007年1年間に71.6トンの余剰食品を美味しく活用しました。



新生会作業所の食堂風景

フードバンク関西は、2007年1年間に71.6トンの余剰食品を食品関連企業から回収し、ボランティアの手によって生活弱者を支援する福祉団体に運んで、食べ物として有効に活用していただくことができました。無償で分配させていただいた食品の種類の主な内容は、パン、野菜果物が39.3トン、鶏肉加工品が19.9トン、米が6.5トンでした。現在食品を定期的にご提供くださる企業は9社、それらを受け取り食べ物として活用してくださる福祉団体は31団体になりました。

食品を受け取って下さる障害者通所作業所のスタッフの皆さんからは、「お米がおいしいので、みんなの食欲がすごい！もっとお米をください。」とか、「野菜いっぱいのお昼食を用意できるようになって皆で健康増進！」という話を聞きます。ホームレスシェルターからは、「鶏肉加工品を毎週受け取って利用者に配れるようになったので、この冬は風邪を引く人の数が減ったようだ。」という話も聞きました。

食品関連企業の皆様からの寄贈も増加しています。今年2月から、ハイツ日本株式会社がフードバンク関西への食品提供企業として、この活動に参加してくださることになり、2月8日に初回の食品寄贈として、レトルトパウチに入ったスープをはじめとして15種類に及ぶ食品を受け取りました。六甲アイランドにある同社関連倉庫から食品類を搬入し、2月中にほとんどの食品を現在フードバンク関西から食品を受け取っている31の福祉団体に分配しました。今冬の厳しい寒さの中、すぐ温めて食べることのできるレトルトパウチ入りスープはとりわけ大好評でした。



ハイツ日本から搬入された食品

最近の寄贈食品の中で、受け取り団体の方にとっても喜んでいただいたのは、愛媛県松山市老舗そば吉からの寄贈品生そば900食でした。子供たちにも本格的なおそばの味を覚えてもらいたいと児童養護施設、障害者作業所等に重点的に分配しました。

有限会社京都成和ベジタブルから、毎土曜日宅配で、きれいなカット野菜が届くようになりました。NPO 釜崎支援機構が運営する食堂「禁酒の館」（就労の機会と安価な定食提供を目的に運営されている）で主に使っていただいています。

昨年秋から、一般個人の方がフードバンク関西にご自宅の余剰食品を送ってくださる事が増えました。受け取らせていただいた食品は最も有効に活用してくださる福祉団体を選んでお届けしています。食品は、賞味期限内で未開封のもの、取り扱い方がわかりやすい食品という条件で受け入れています。宅配便ご利用の場合は土曜日午前中の配達指定で、送料は恐縮ですが送主様ご負担でお願いしています。皆様からのご支援をお待ちしています。

元気アップ大賞獲得！！



1月27日（日）第8回ひょうごボランティア・スクエア21のボランティア・市民活動元気アップアワードの2次審査がコープこうべ生活文化センター2階ホールで開催されました。

1次審査を通過したのは、たかとりコミュニティセンター、上郡町ボランティア協会とフードバンク関西の3団体で、それぞれ趣向を凝らしたプレゼンテーションを行い、元気アップ大賞獲得を競いました。フードバンク関西は、「余剰食品の活用を通じて福祉団体を支援する

フードバンク事業の方法の確立と普及」のために「日本の実情に即した効果的なフードバンク活動を確立するとともに、兵庫県内の各地域のNPOやボランティア団体に活動の方法や情報を提供して、フードバンク事業が県内各地域に広がることを目指します。」を今年の企画として、この審査に臨みました。私達も何とかこのチャンスを活かして、皆さんに私たちの活動を知っていただき、ご支援を仰ぎたいということで、パワーポイントスライドを使ってのプレゼンテーションに加えて、いつも取り扱っている余剰食品、パン、野菜、果物、鶏肉加工品、米を会場に持ち込み、会場の皆さんに「こんなに美味しそうで安全な食品が廃棄されていいのでしょうか？」とアピールしました。それが効を奏したのか、たかとりコミュニティセンターとは本当に接戦で、得点1点差でフードバンク関西が元気アップ大賞をいただくことができました。

来年の活動報告の場で、実のある結果報告ができるように、2008年の1年間にフードバンク関西の活動が、長期継続可能な形に発展し、各地に私たちに続いてフードバンク活動を展開するNPOが増えるように、良き先駆団体となれるよう努力したいと思います。

食品を活用してくださる福祉団体訪問記 第1回 社会福祉法人新生会作業所

桜の花便りが届いた3月26日、兵庫県西宮市の社会福祉法人新生会作業所を訪問し、日常の活動の様子を見学させていただきました。障害のある人も自分の能力を最大限に活かして働く喜びと社会生活を普通に送れる喜びを体験、実践されています。

定員は31名で小規模作業所の9名を合わせて合計40名の方が各事業部門に分かれて印刷、製本、軽作業、販売などに従事されています。印刷機も4台あり、兵庫県社会福祉協議会環境白書や各種冊子が作られています。才能豊かな作業員の絵が来年の企業のカレンダーに採用されたそうです。当初は印刷の仕事が9割を占めていたそうですが、販売部や喫茶部のケーキ、クッキー作り、鉢花作り、野菜の朝市、袋詰等の軽作業も増え、収益も上がり、一人当たり1万5千円位の労賃をお渡しできるようになったとの事です。私たち、フードバンク関西から



作業中の皆さんと印刷室



フードバンクからの食品が到着

届けられた食品はどの様に有効活用されているのか拝見させていただきました。広い清潔な食堂で美味しそうなお弁当やフードバンクから届いたぶどうを使ったゼリーなどを見せていただきました。また、以前に大量に届いたサツマイモでスイートポテトを試作り、商品化にこぎつけたそうです。今では材料の芋は外注して週2回くらい作り、人気商品になっているそうです。喫茶たんぼぼは地域の方が気軽に利用できる場所です。私たちもそこで休憩させていただきました。焼きあがるクッキーの甘い香りに心もとろけます。クッキー作りのみなさん、ウエイトレス、販売員さん、皆さん接客マナーや技術を学び、生き生きと働いておられました。各部で企画、アイデアを出し合って更なる発展を目指して、誠実に日々努力しておられる新生会に頭が下がる思いです。今後とも食品を受け取って下さる

皆さんとのネットワークで一層の協働ができることを願っています。

新生会作業所所長高田嘉敬さんからのメッセージ

作業所は「障害のある人が働く」を応援するところ。中学校の数より多いです。(兵庫県に約500箇所) 新生会は老舗です(創業1970年は大阪万博の年、86年に法人設立)。印刷が大黒柱。名刺・葉書・伝票・ポスター・報告書・紙の印刷は何でもOK。軽作業(メール便・パンフの封入・パウチなど何でも)、喫茶と製菓(スイートポテトとパン)、販売作業(各地のグッズ・缶詰パン・家島の塩・ハスカップジャムなど)てんこ盛り。皆さんのお越しをお待ちしております。

編集後記

五年目を向かえて

フードバンク関西理事長 藤田 治

今年もようやく桜が咲き漂う空気が少し甘く感じる季節になったような感じがします。昨年の冬は例年になく極寒となったので、余計に暖かさを感じるのは私だけでしょうか。

フードバンク関西も5年目を向かえ、マスメディアにも少しは取り上げられるようになり、ようやく日本にもこのような活動をしている団体が存在することを少しは知っていただけたかなと感じる今日この頃です。アメリカ人のブライアン・ローレンスからフードバンク関西を引継ぎ、NPO法人としてスタートを切ったときの事は、今でもはっきりと記憶があります。右も左もわからず暗中模索で、「取り敢えず食料が欲しい、それらを待っている人たちがいる」、5・6人のボランティアが交代で毎日食料を引き取り、届ける、ただそれだけで毎日を追いかけるように活動をしてきたような日々だったと思います。

事務局が西・東へと奔走し法人格を取得、ボランティアさんが自分の所有の車で配送、多分それまで車内は清潔にきちんとしていたでしょうが、配送を始めてからは車内に野菜のかけらや、パンのくず、拳句の果てはこぼれたジュースの滲みと大変だったことを思い出します。当時は企業がフードバンク関西に提供して下さるものは全て引き取り、西成区のシェルターや神戸・西宮・尼崎の施設に届け、大変喜んで頂いたことを思い出します。当然、今もスタート時と基本は変わっていないのですが、やはり年季が入ってきたと申しますか、ここの施設はこれが要るとか、この団体はこういったものが不足していると言うような、細かなフードバンク活動が少しは出来るようになったのではないかと自負している今日この頃です。しかし まだもっと肌理の細かい活動が求められているのではないかと考えています。

フードバンク活動を支え協力していただいている企業の方々、そして **もったいない、食べられるは食べる** を基本に、無償でボランティアとして参加して下さっているの方々へ改めて感謝です。

提供して下さる企業も当初に比べると格段に増え、この活動を理解し参加して下さるボランティアの方々も、

5・6人で始めた頃とは違い、今では信じられないくらいの人たちに参加して頂き、責任の重さをひしひしと感じております。今後も **もったいない・食べられるは食べる**

の基本を守り、今までよりもっと肌理の細かいフードバンク活動をし、そしてこの活動を今まで以上に認知して頂き、このネットワークが日本の隅々まで行き渡るように努力をしたいと思っております。

活動を理解してご支援頂いている企業の方々、そして参加して

事務局でのミーティング風景

下さっているボランティアの方々、そしてこのニュースを読んで頂いているの方々、これからも宜しくお願いいたします。



余った食べ物を預かって、必要なところに届けます フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL0797-34-8330

<http://foodbankkansai.web.infoseek.co.jp> e-mail foodbank05@yahoo.co.jp